

# あすを拓く

「研削加工は砥石ではなく心で削る」  
 そう自分に言い聞かせ続けて40年。  
 精密加工を極めたスペシャリストが  
 後進の育成に全精力を傾けている。



アルプス電気株式会社  
 ものづくり研修所  
 テクニカルアドバイザー  
 たかはしのぶお  
**高橋 信雄さん**

**プロフィール**  
 1954年大崎市生まれ。定時制工業高校の機械科を卒業後、74年にアルプス電気株式会社古川工場に入社。2014年に同社を定年退職後も人材育成に携わる。特級機械加工技能士。2008年宮城県「卓越技能者表彰」、13年厚労省「卓越した技能者（現代の名工）」表彰

思いがけず精密加工の世界へ  
 技能向上への飽くなき挑戦続ける

金型製作の第一線で活躍  
 同社初の「現代の名工」に認定

将来は自動車修理のエンジニアとして働こうと考えていた高橋さんは、中学校を卒業後に定時制工業高校に進学した。昼は自動車修理のアルバイト、夜は高校で勉強卒業と同時に資格を取って就職する――。

そんな人生プランを思い描いて入学した矢先に、先生から「アルプス電気の工場でアルバイトを募集している」と聞いた。

「仕事は午後3時まで。これなら仕事も勉強も両立できる」とアルバイトの採用試験に応募。同社で研削加工員として働き始めた高橋さんは、入社初日からものづくり現場の厳しさを目の当たりにした。

「ノギスやマイクロメーターの使い方、研削盤の操作方法や加工方法など、すべてが初めての経験でした。当時は、「技や方法は、先輩のやり方を盗んで覚える」という時代で苦労しましたが、仕事を覚えれば覚えるほど面白さを感じました」と振り返る。

高校を卒業と同時に正社員になると、高橋さんは、ますます研削加工の世界にのめり込んだ。難易度の高い複雑な形状の加工を積極的に引き受け、次々と形にしていた。「上司からほめられ、先輩や同僚から認められました。その喜びが、更に難易度の高い加工に挑戦する糧となりましたね」と話す高橋さんは、いつしか周囲から「異形加工の鬼」と呼ばれ、その実力をたたえられるようになったという。

パソコンや携帯電話に使われるメモリカードなどのコネクタ、電気機器の動作や状態を検知する検出スイッチ。高橋さんは、これらの電子部品を構成するプラスチック成形品の金型製作で技術と感性を磨いた。さらに、独自の測定器を開発して微細な加工精度を実現したり、加工方法に工夫を凝らして製品の不良を改善したりするなど、次々と新しい技術を身に付けた。

「精度や品質に妥協は許されない。常に目標達成に向かって挑戦する気持ちを忘れずに仕事に臨みました」

1991年からは3年間、他社向けの金型製作のチームリーダーを担当し、メーカーから金型製作の注文を取り付けるため、全国を飛び回った。

関西にある大手企業からプレス加工の金型を受注した時のこと。「連続4時間加工しても、製品にバラつきが出ない」という認定条件がクリアできず、改良した金型を何度も持ち込み、テストを繰り返した。

「1週間ホテルに泊まり込んで原因の究明にあたりましたが、解決できませんでした。量産に間に合わない又何度も苦情が寄せられ、この時ばかりはこのまま辞めてしまおうかと思いました」

追い詰められた高橋さんに、「後はなんとかしますから」と同じ宮城県出身だった受注先の営業課長が救いの手を差し伸べた。

後日バラツキの原因が、発注先が購入した部材にあったことが判明し、無事に解決することもできた。

数々の困難を乗り越え、金型製作の新たな道を切り拓いてきた高橋さん。長年の実績が評価され、厚生労働大臣から同社で初めて「現代の名工」の栄誉を受けた。

人材育成やものづくりの啓発に尽力  
 「人技能」の素晴らしさを伝える

2007年からは、ものづくり研修所で金型部門の人材育成や新人研修に取り組んでいる高橋さん。11年には、キューブ加工実習を取り入れた3カ月間の新人研修プログラムを完成させ、設計図の作成から仕上げまで、187時間にも及ぶ実習を通して、未来を担う新入社員に、精密加工に必要な「精度的感覚」を叩き込んでいく。

さらに12年からは、地元の工業高校生を対象にした「ものづくり体験」の受け入れを始めた。金属のプレス加工や鏡面加工体験を通して、ものづくりの楽しさや人が持つ技能の素晴らしさを生徒に伝え続けている。

「目標達成へのこだわり」と思いが強ければ、必ずアイデアが生まれます。そして、自分が納得するまで試行錯誤を繰り返すことで、自然と技能を体得することができるはずですよ」と力強く語る高橋さん。今日も教壇に立ち、若者たちにもものづくりの極意を伝え続けている。



新人研修の実習課題として考案されたキューブ。6つの面を構成するパーツはそれぞれ形が異なり、パズルのように組み合わせると、1つの立方体が完成する

アルプス電気株式会社古川第2工場にある「ものづくり研修所」は、同社の技能伝承と学習の場である。ここで社員の人材育成に取り組む高橋信雄さんは、40年近く同社の金型製作部門で精密加工を極めてきた熟練の技能者だ。

「これは、私が新人研修の題材として考案したキューブです」と高橋さんは、金属製の立方体を見せてくれた。

「このキューブを研削加工だけで仕上げます。熱膨張やバリなど、加工時に起こる様々な課題に挑み、1000分の1ミリ単位の精度を出す方法を見出していきます」新人社員にとっては、失敗は避けられない難しい課題だ。そこには、「目標に対するこだわり」と思いを持ち努力すれば、必ず道は開ける」という高橋さんのものづくりにかけるメッセージが込められていた。



「ものづくり体験」での講義の様子。今年10月には10期生を受け入れる



高校生はプレス加工品(右)や鏡面加工品(左下)の製作を体験する



「ものづくりにおいて人の技能はこれからも欠かせない」と話す高橋信雄さん

**アルプス電気株式会社**  
 1948年設立。自動車、家電製品、スマートフォン、PC、ヘルスケア機器など、幅広い分野の機器に搭載される約40,000種類の電子部品をグローバルに供給する。独自の技術力で人々の「より快適な生活」の実現を目指す

■所在地  
 本社：東京都大田区雪谷大塚町1-7  
 古川第2工場：大崎市古川塚目字北原136-1  
 TEL 0229-91-8311  
<http://www.alps.com/j/>

